

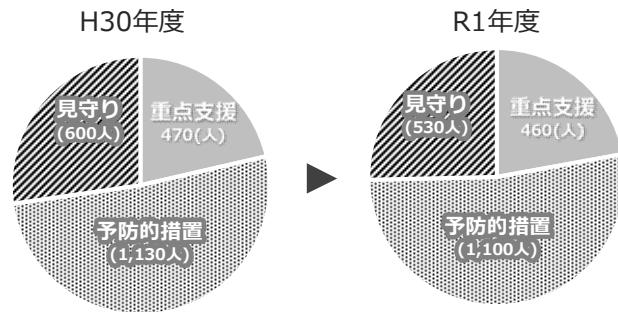
## 1 貧困の連鎖の根絶

- 支援の必要な貧困家庭の子どもを早期発見し、適切な支援につなぐため、子ども成長見守りシステムにおいて支援が必要と判定された子どものデータを小・中学校へ示し、学校現場での支援とともに、関係機関や支援体制につなげる体制づくりを進めています。

### 見守り判定とモニタリング

- 子どもの「経済・養育状況」や「学力・体力」「非認知能力」などのデータや変化値を活用し、支援の必要性の判定を行います（年2回）
- 定例的な情報共有の場として、各校で「見守りシステム活用会議」を実施しています。（年2回）
- 在籍児童・生徒のデータを各校へ提示・共有し、見守り判定の根拠を説明した上で、学校での状況をヒアリングしています。
- 重点支援判定となった子どものうち、学校側で支援未実施の子どもについて、モニタリングの指示をします。
- 今後、モニタリングにより追加支援が必要と考えられる場合には、学校現場での支援とあわせて、関係機関や支援体制につなげていきます。

### 小・中学生（7歳～15歳）の判定結果内訳と推移



### 高校との連携

- 中学校卒業後の支援方策を検討するため、市内の高校をモデル校としています。
- 支援の必要な生徒について、継続支援のための情報交換を行うなど、関係性の構築に努めています。

### 今後の方針

子ども成長見守りシステムを活用し、引き続き、子どもたちの状況・変化をつかむモニタリングを実施し、学校や関係機関とともに支援体制の充実に努めていきます。

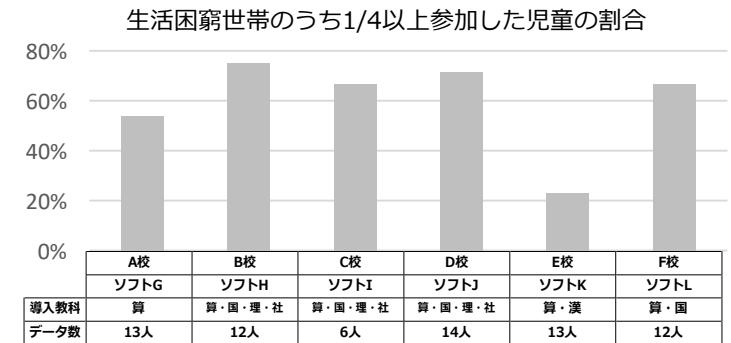
- 複数の学習トライアルを実施し、それらの効果検証を行いました。

### 放課後学習支援のトライアル概要

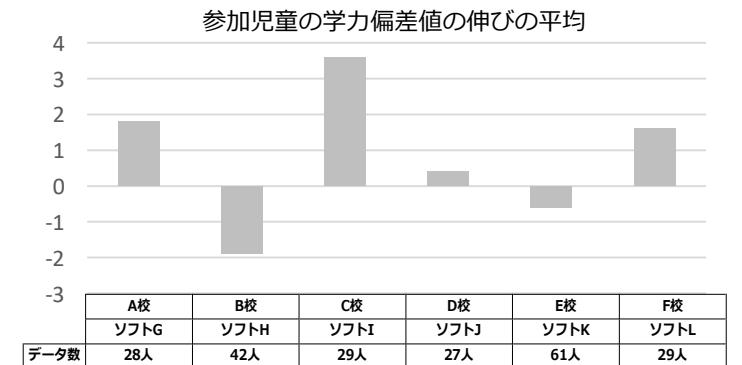
- 小学校8校で以下の異なる学習フィールドを用意し、トライアルを実施しています。
  - ・タブレットによる自学自習を行う場の提供…6校（それぞれに異なる学習ソフトを導入）
  - ・塾講師を派遣し、学習できる場の提供…1校
  - ・自学自習する場の提供…1校

### ◆タブレットによる自学自習

- ・生活困窮世帯の児童の参加状況を確認すると、E校は、開室日数の4分の1以上参加した児童が約2割しかいませんでした。これは、タブレットで扱う問題が算数と漢字のみであること、解説がアニメーションなどではなく単調な授業動画であることに起因していると考えられます。（右グラフ）



- ・一方、各学校において、生活困窮世帯だけでなく、すべての参加児童の学力偏差値の伸びの平均を比較すると、最も高い傾向にあるのがソフトIでした。また、ソフトG・Lにおいても比較的高い傾向が見られました。その他、ソフトJもプラスの伸びとなりました。一方ソフトH・Kにおいてはマイナスの結果でした。（右グラフ）



※各校とも1日の参加定員数は30名

- ・ステップアップ調査に基づき、生活困窮世帯のうち、タブレット学習に参加している児童と、参加していない児童とで偏差値の変化を比較しましたが、対象となる人数が少ないこと、また事業開始からステップアップ調査までの期間が短かったことにより、明確な結果が得られなかったことから、引き続き検証を継続し、データの蓄積を行います。

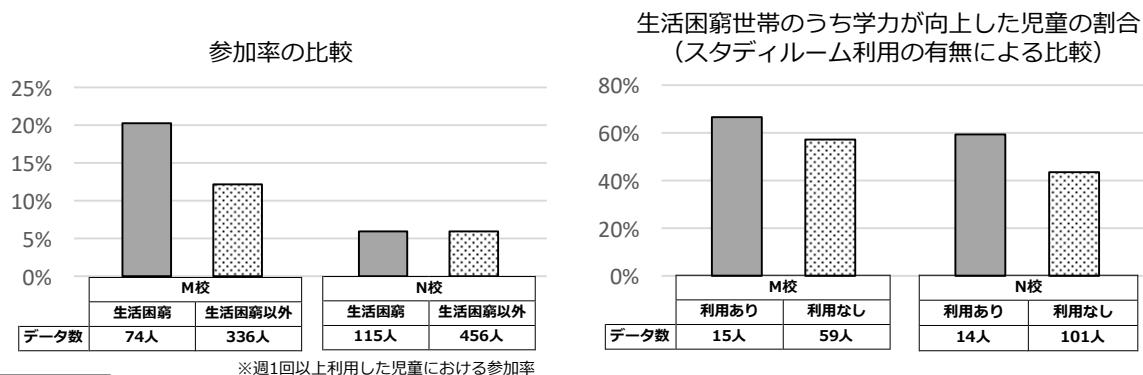
### 今後の方針

学力偏差値の伸びが見られたA校、C校、D校、F校については、引き続き同じソフトを使用して検証を続けます。学力偏差値の伸びがマイナスとなったB校については学力偏差値の伸びが見られたソフトIに、同じく学力偏差値の伸びがマイナスとなったE校については学力偏差値の伸びが見られたソフトLに変更し、引き続き検証を継続します。

# 1 貧困の連鎖の根絶（つづき）

## ◆塾講師派遣及び自学自習の効果検証

- 講師派遣学習指導（M校）及び自学自習（N校）は、参加申込等は必要なく、基本的に児童が自主的に参加する方法となっています。それぞれの学校で生活困窮世帯の児童と生活困窮世帯以外の児童の利用率を比較すると、生活困窮世帯の児童のほうが高い結果となりました。
- 生活困窮世帯の児童について、スタディールームの利用の有無と学力への影響について分析したところ、利用する児童のほうが、学力が向上した児童の割合が高いことがわかりました。



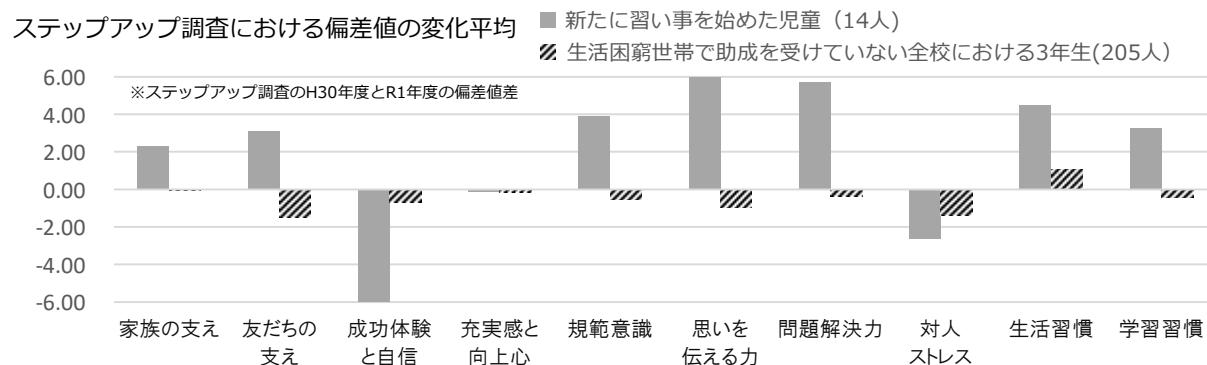
### 今後の方針

検証を継続し、生活困窮世帯の児童へより効果のある運営方法の検討を進めます。

## スポーツ教室や塾等の習い事にかかる費用助成の概要と効果検証

- 生活保護・児童扶養手当の受給世帯の小学3年生が通うスポーツ教室や塾等の習い事にかかる費用を助成する「塾代等助成モデル事業」を試行実施しています。対象世帯のうち、モデル事業をきっかけに習い事を新たに始めた児童と、助成を受けていない全校の小学3年生の意識にどのような変化が見られたか、ステップアップ調査を基に検証しました（下グラフ）。

※新たに始めた習い事の種類の、学習塾が7件、スポーツ教室が5件、その他（音楽教室等）が3件でした（一世帯で複数利用あり）。



- 「家族の支え」「友だちの支え」「規範意識」「思いを伝える力」「問題解決力」「生活習慣」「学習習慣」の項目において肯定的回答の上昇がみられました。一方「成功体験と自信」「対人ストレス」の項目において肯定的回答率の低下がみられました。今回のステップアップ調査は、助成を開始して間もなくの調査であったため、新しく習い事を始めた対象児童が、周囲と比較して一時的に自信をなくしたり、慣れない場面で緊張するなどの経験があったのではないかと推測されます。

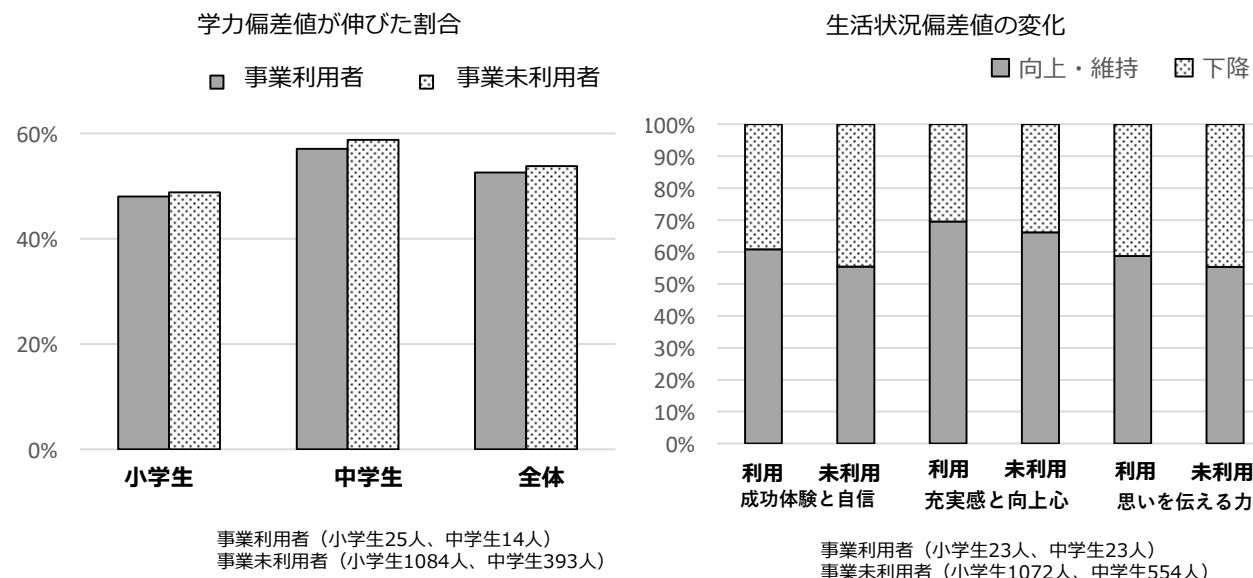
### 今後の方針

今年度助成対象とした小学3年生に継続して助成するため、令和2年度は助成対象を小学4年生とし、効果検証を継続して行います。また、対象児童の意識が今後どのように推移していくか、経年変化を追っていきます。

## 学力保障・学習支援事業の概要と効果検証

- 不登校や病気による長期欠席等により学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童が中学卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、申請に基づいて学習を中心とした支援を行う学生サポーターを派遣しています。
- 本事業の利用にあたっては、学校の支援検討委員会等で本事業の利用が望ましいと判断した児童生徒について、保護者へ制度を案内し、利用を促しています。
- ステップアップ調査に基づき、生活困窮世帯の児童生徒のうち本事業を利用した児童生徒と、利用していない児童生徒で、学力偏差値と生活状況偏差値について比較しました（平成30年度と令和元年度を比較）。
- 学力偏差値が向上した児童生徒の割合は、本事業を利用していない方が高い結果となりました（左下グラフ）。本事業は、生活困窮世帯の児童生徒の中でも、より学習支援が必要な児童生徒が利用しているため、学力の向上が表れにくいと推測されます。
- 一方、生活状況偏差値の変化については、利用者の方が「成功体験と自信」「充実感と向上心」「思いを伝える力」が向上しました（右下グラフ）。

※四中校区の小中学校に在籍している児童生徒には株式会社トライグループ、それ以外の校区の小中学校に在籍している児童生徒にはNPO法人あっとすくーるによる学習支援や登校支援を行っています。トライグループについてはまだデータが少なく、一人の成績の変化でも分析結果が大きく変わってしまうことから、両者の比較は来年度以降に行います。



- その他、令和元年度の1学期と2学期で本事業利用者の登校率を比較したところ、小学生では58%、中学生では48%の児童生徒の登校率が改善していました。

### 今後の方針

生活困窮世帯、不登校、長期欠席の児童生徒の学習支援、生活支援及び登校支援を行うため、引き続き事業を実施し効果検証を行います。また、トライグループの担当校区を拡大し、あっとすくーると同規模で実施することで、両者の比較検証を行います。

なお、本事業の利用に至っていない児童生徒の状況について引き続き学校と情報共有し、本事業を必要としている児童生徒の利用を促進するとともに、利用にあたって障壁になっているものがないか把握し改善に努めます。

## 2 学校組織体制の再構築

■ 昨年10月にパイロット校の指定校変更及び事務支援員の配置替えを行い、時間外勤務削減状況について検証しました。その結果、箕面小学校、豊川南小学校、彩都の丘学園で有意な効果が見られました。

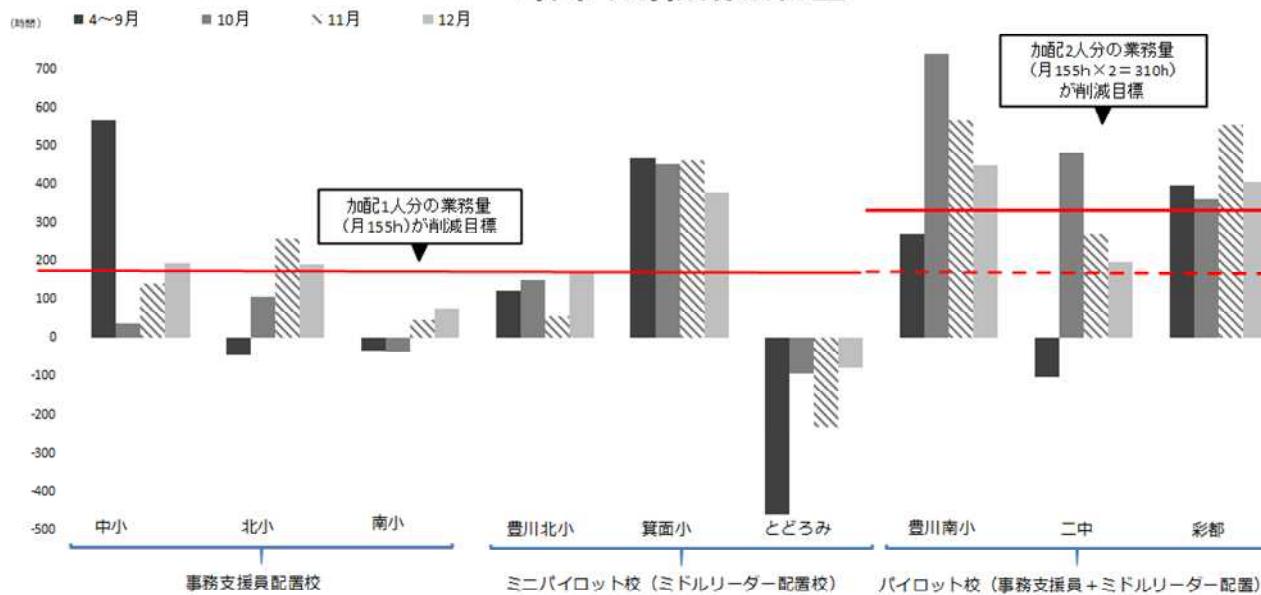
### 【パイロット校の変更】

- 南小 ▶ 豊川南小
- 第一中学 ▶ 第二中学
- 彩都の丘 ▶ 彩都の丘（変更なし）

### 【事務支援員の配置換え】

中小学校の事務支援員を北小学校へ、豊川南小学校の事務支援員を中小学校へ配置換えし、パイロット校となった豊川南小学校の事務支援員は新規採用

### 時間外勤務削減総量



## 今後の方針

事務支援員の配置換えを行ったことにより、配置換え以前は効果が出なかった北小学校においても効果がみられました。しかし、配置換え以前の中小学校での効果までには至っておらず、その要因を探るため検証を継続します。また、年間を通して成果が見られなかった南小学校は今年度で検証を終了します。

ミニパイロット校については、国の「業務改善加速事業」による加配であり、今年度をもって当事業が終了となることから、効果がみられなかった豊川北小学校、とどろみの森学園においては検証を終了します。一方、箕面小学校については効果が見られたことから、箕面小学校及び新たに1校をミニパイロット校として指定し、市費による加配教員を配置して、検証を継続します。

昨年10月よりパイロット校となった豊川南小学校、第二中学校においては、検証期間が短いため、彩都の丘学園とともに継続して検証を行います。

■ 「学校でしかできない事務」以外の事務作業を「学校事務センター」に集約し、継続して業務を進めています。令和2年度には、これまで学校事務職員が行ってきた物品購入手続きなどの事務作業を学校事務センターに集約し、引き続き効率化を図ります。

## 3 すべての児童生徒の学力の向上

■ 習熟度別指導について、分析を行いました。

### 分析1 学級の分割方法毎の学力向上率

習熟度別指導における学級の分割方法の違いによる学習効果を検証するため、1学級2分割・2学級3分割・分割なしで児童生徒の学力向上率を算出し、比較しました。

(対象は比較可能なサンプル数の多い算数・数学としました。)

分割方法	学力が向上した子どもの人数の割合	
	小学校	中学校
1学級2分割	61.0%	68.2%
2学級3分割	74.1%	実施校なし
分割なし	61.7%	58.9%

- 小学校では、昨年度は1学級2分割の方が高い結果でしたが、今年度は2学級3分割の方が向上率が高い結果となりました。
- 中学校では、昨年度同様、分割なしに比べ1学級2分割の方が向上率が高くなる結果となりました。

### 分析2 分割後のクラス毎の向上率

分析1の検証をさらに深めるため、分割後の習熟度別クラス毎の向上率を算出し、比較しました。

- 小学校では、昨年度は基礎クラスでの向上率が高い結果でしたが、今年度は応用クラスでの向上率が高い結果となりました。
- 中学校では、昨年度は、応用と基礎クラスの差はほとんどありませんでしたが、今年度は応用クラスの方が向上率が高い結果となりました。

分割方法・クラス		学力が向上した子どもの人数の割合	
		小学校	中学校
1学級2分割	応用	61.4%	71.6%
	基礎	60.4%	62.0%
2学級3分割	応用	77.2%	実施校なし
	標準	72.1%	
分割なし	基礎	71.9%	58.9%
	標準	61.7%	

### 分析3 分割時の人数比を変更した場合の向上率

1学級2分割の場合、多くの学校では基礎クラスの方を少人数で実施しているところ、逆に応用クラスの人数を少人数にし、習熟度別指導を実施しました（昨年度は豊川北小、今年度は彩都小で実施）。

下図のようにA・B・C層に児童を分け、それぞれの層の学力向上率を比較しました。

通常		変更後	
学級	層	層	層
1学級2分割	応用	A	B
	標準	B	C
	基礎	C	A

層	学力が向上した子どもの人数の割合		層	学力が向上した子どもの人数の割合	
	豊川北以外 (H30)	豊川北 (H30)		彩都以外 (R1)	彩都 (R1)
A	44.9%	応用 40.6%	A	61.3%	応用 74.0%
B	応用 32.7%	基礎 53.1%	B	応用 58.5%	基礎 71.4%
C	基礎 54.1%	基礎 64.8%	C	基礎 57.8%	基礎 67.5%
全	43.9%	52.0%	全	59.8%	71.2%

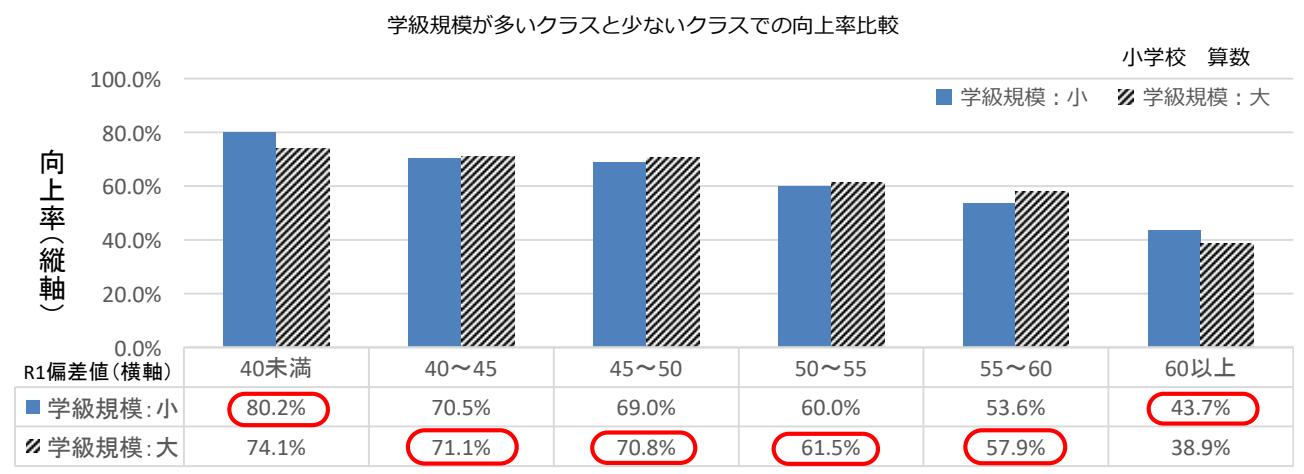
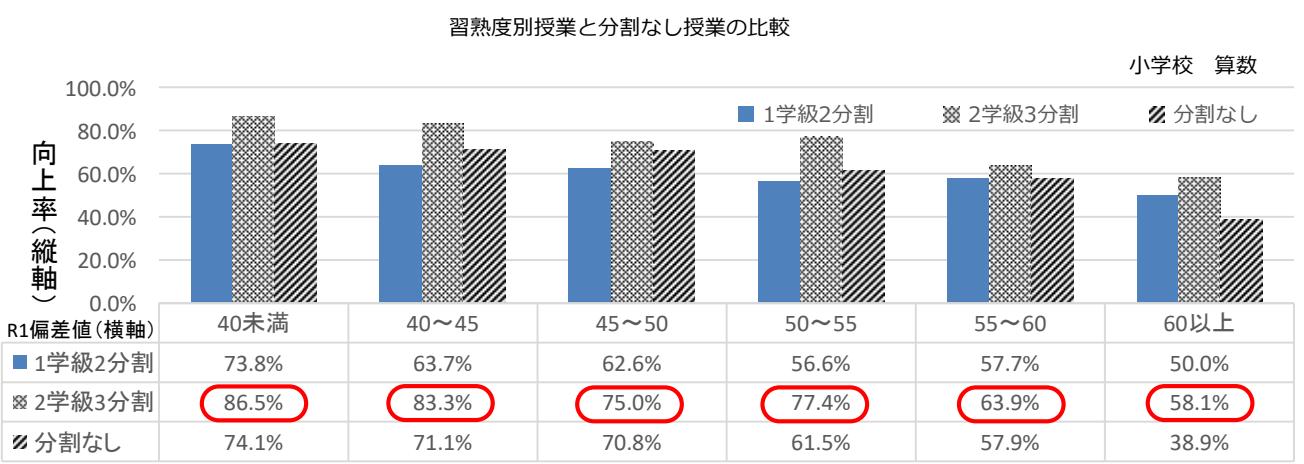
- 2か年の検証の結果、B層はA層よりもC層と一緒に授業を受けた方が、C層は単独よりもB層と一緒に授業を受けた方が、より学力向上率が高くなりました。一方、A層においては、昨年度の検証では、単独で授業を受けるよりも、B層と一緒に授業を受けた方が向上率が高くなるという結果だったのに対し、今年度の検証では、単独で授業を受けるほうが向上率が高くなるという結果になり、2か年で異なる結果となりました。

### 3 すべての児童生徒の学力の向上（つづき）

#### 分析4 R1授業形態別×H30学力別の向上率（右グラフ）

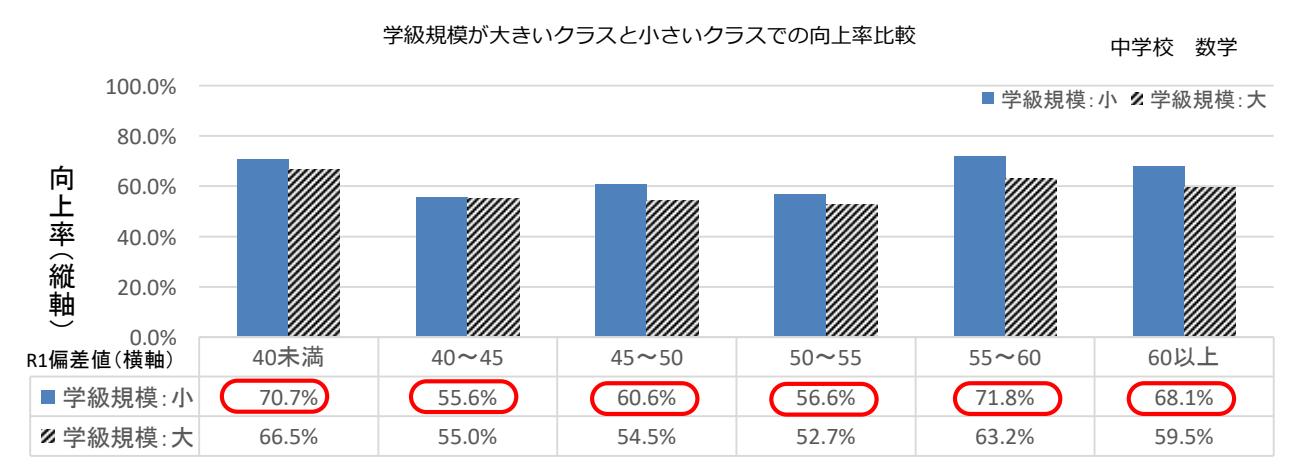
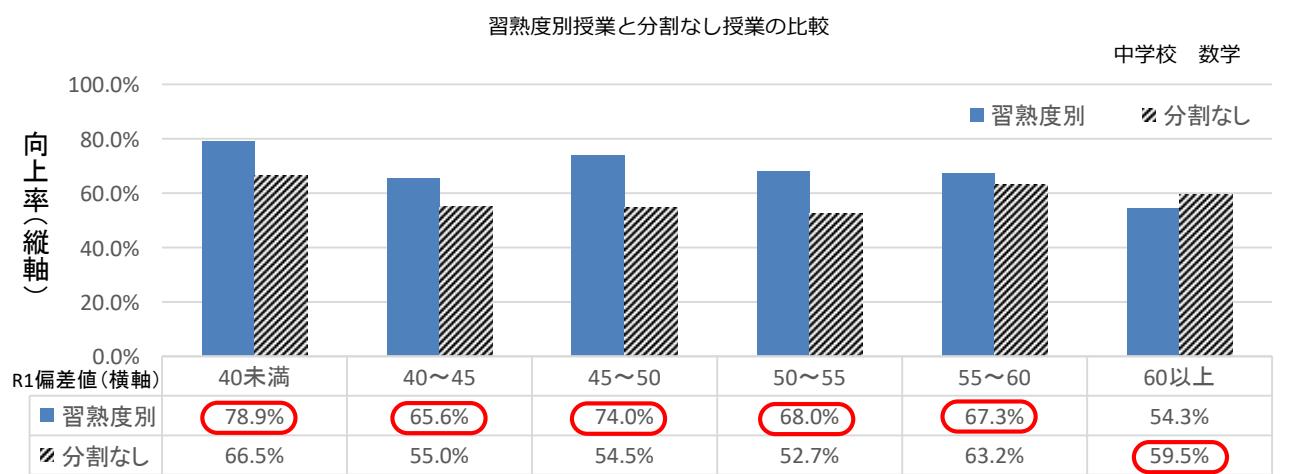
子どもが受けている授業形態（習熟度別授業か分割なしの授業か）と元々の学力によって、学力向上率にどのような違いが見られるのかを検証しました。また、箕面市では国の学級規模検証加配を活用して、一学級の児童生徒数を少なくし、よりきめ細かい指導を行っています。そこで、一学級の児童生徒数の違いによって、学力向上率に差が見られるかどうかについても、あわせて検証しました。

##### <小学校の分析結果>



● 1学級2分割・2学級3分割・分割なしを比較したところ（上グラフ）、すべての偏差値帯において2学級3分割の方が向上率が高い結果となりました。また、学級規模の大小で偏差値の向上率を比較したところ（下グラフ）、偏差値40未満及び60以上では学級規模が小さい方が向上率が高い結果となり、それ以外では学級規模が大きい方が向上率が高い結果となりました。

##### <中学校の分析結果>



● 習熟度別と分割なしを比較したところ（上グラフ）、今年度は偏差値60未満では習熟度別の方が、偏差値60以上では分割なしの方が、向上率が高くなりました。また、学級規模の大小で偏差値の向上率を比較したところ（下グラフ）、すべての偏差値帯において、学級規模が小さい方が向上率が高くなるという結果になりました。

#### 今後の方針

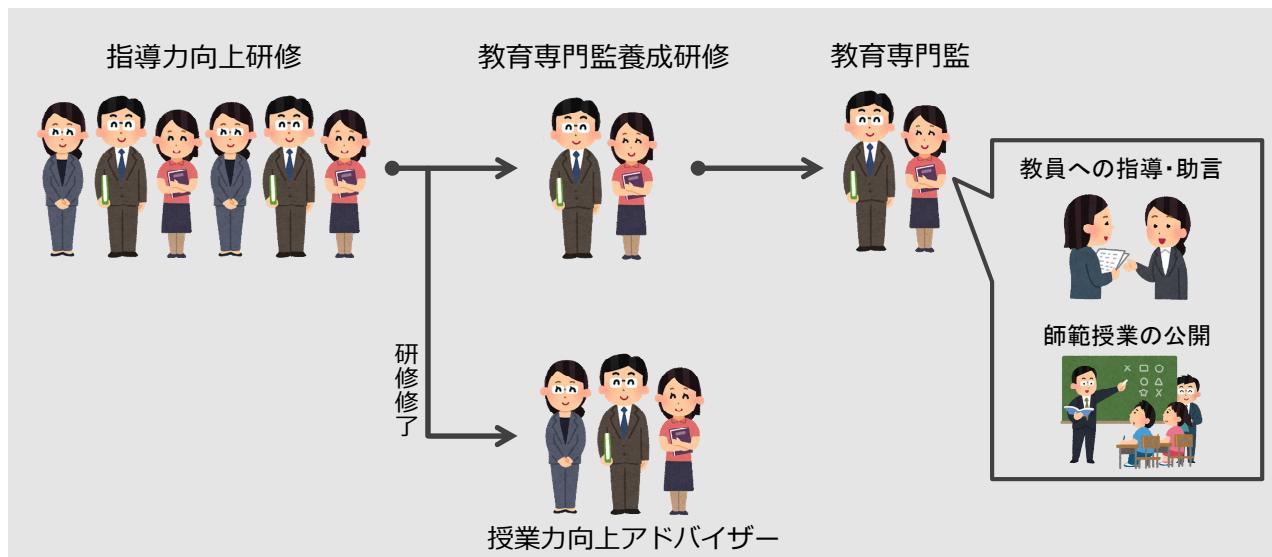
中学校において、おおむねどの偏差値帯においても、分割なしの授業よりも習熟度授業のほうが効果が高いという結果が数年間にわたり出ていることから、習熟度別授業の回数をさらに増やします。

一方、小学校においては昨年度の検証結果とは異なる傾向が見られた項目が多かったため、データを蓄積し、検証を継続します。また、来年度を区切りとして、これまでのデータから学力向上に資する指導方法や授業形態の結論を出していきます。

### 3 すべての児童生徒の学力の向上（つづき）

- 教員への指導・助言に必要なスキルを習得する「指導力向上研修」履修者の中から、「教育専門監養成研修」受講者の選出を行います。

※教育専門監は市の教育方針に基づき、国の動向を把握したうえで、担任と一緒に授業をしたり、師範授業を公開するとともに、直接教員へ指導・助言する役割を担います。



#### 今後の方針

令和2年度より「教育専門監養成研修」を実施し、教育専門監として活躍できる教員の育成を行います。

指導力向上研修を受講し終えた教員を、授業力向上アドバイザーとして他教員へ周知することで、授業力のある教員の見える化を進めます。

さらに、指導力のある教員を教科別ごとに見える化することについて、検討を継続します。

- 小中一貫教育のさらなる推進に向けた取り組みの基本方針を検討しました。

#### 【取り組みの基本方針】

1. それぞれの教科において9年後の目標を明確化し、小学1年生から中学3年生までのカリキュラムを再整備し、学習内容の精選や進度の見直しを行います。
2. 教員自身が9年間の一貫した教育観を持てるよう、小・中学校の区別なく人事配置を行います。
3. 同じ校区内の小・中学校をひとつの“学園”と捉え、“学園”を運営する権限をもつ“学園長”を配置します。

#### 今後の方針

特に校区連携型小中一貫教育のさらなる推進に向け、具体的に取り組んでいきます。

### 4 児童生徒・青少年の居場所づくり

- 子どもたちにとって貴重な異年齢交流の場・地域コミュニティへの入り口となる子ども会活動の活性化を図っています。

- 各子ども会が自身の活動に専念できることを目指し、昨年度箕面市子ども会育成協議会が解散されました。今年度から市教育委員会がドッジボール大会などの行事運営を行い、やり方も工夫することで、子ども会役員の負担を軽減しています。
- 加入状況については、2年ぶりに新規の子ども会が立ち上がった事例もありますが、市内の子ども会数・加入者数・率は、昨年度35単位、944人、10.9%から、今年度2月現在で34単位、872人、9.9%と微減となっており、役員の負担「感」が払拭され、直ちに加入率を大きく上げていくことは容易なことではないと考えております。

- 子どもたちの活躍の場、自己肯定感の向上につながる機会の提供を行います。

- 子どもたちが得意なことを伸ばせたり、新しいことにチャレンジできるよう、大会やコンテスト、自治体等が主催するイベント等の情報を集約し、わかりやすく子どもたちに提供しています。

#### 今後の方針

子ども会については、新入生にウェルカムパーティーへの参加を促すなど、引き続き新規加入を呼びかけるとともに、子ども会の活性化を図っていきます。また、新規立ち上げの子ども会に対して、安定的な運営が可能となるよう、支援を行っていきます。

また、大会やコンテスト等の情報を引き続き集約し、継続して子どもたちに提供していきます。

### 5 子育て支援と外出促進

- 子育て中の保護者の要望や満足度調査をもとに、キッズコーナー等の拡大を図っています。

- 令和2年度の東図書館のリニューアルオープンにあわせて、キッズコーナーを設置します。
- 親子が集う場の確保策として、市内商業施設等へのキッズスペースの設置促進や既存スペースの市民開放に向けた働きかけ等を行います。

- 公園で人気の高い遊具や地域でのニーズ差を把握するため、乳幼児がいる保護者や小学3年生までの約5,300名にアンケート調査を実施しました。この調査結果をもとに、公園遊具の更新を検討していきます。

#### 今後の方針

引き続き親子で楽しく過ごせる場の拡充に取り組んでいきます。